

思川だより

令和3年4月16日 第76号



基礎掘削、始めました！

工事の状況はこちらからもご覧いただけます。

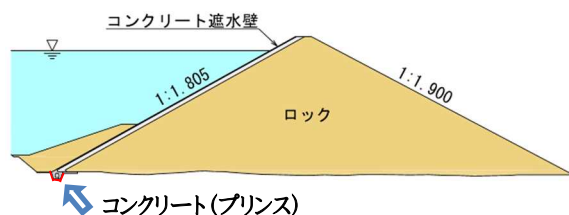
令和3年4月現在、当建設所では付替県道・林道の新設工事13件、ダム本体建設工事1件、ダム本体の関連工事3件、導水施設工事2件を実施しています。

今回は、令和3年2月15日から開始した“基礎掘削工”を紹介します。

基礎掘削とは、南摩ダムの基礎となる硬い岩盤を出すための工事です。重機を用いた掘削と火薬を用いた発破作業とを併用し、地表付近の土砂や風化してもろくなった岩盤を取り除きます。ロック材の基礎はCL級岩盤以上の堅硬な岩盤が出るまで、コンクリート（プリンス）の基礎はロック材の基礎よりも更に堅硬なCM級岩盤以上の岩盤が出るまで掘削を行います。掘削する全体の土石の量は約100万 m^3 です。この基礎掘削では、63tリッパ付ブルドーザや、46t級重ダンプトラックなど、ダムの建設現場でしか見られない大きな重機を使用します。また、掘削後からダム本体の盛立開始までの間、掘削が完了した場所にモルタルを吹き付けて、ダム基礎となる掘削面が痛まないように保護します。

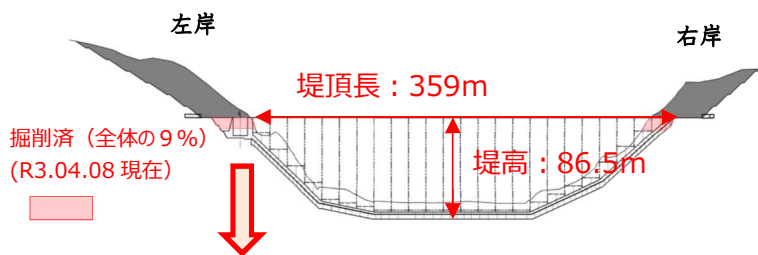
ダムサイト展望広場からは、この基礎掘削の様子を一望できます。建設中の今しか見られない、大迫力の工事現場に、是非足をお運びください！また、工事の様子はHP掲載のライブカメラでみることができます。

YouTube や Twitter にも掲載していますので、そちらも是非ご覧ください！



南摩ダム基礎岩盤の岩盤等級区分

CH級	岩片は新鮮、堅硬で割れ目間隔も広く（5～15cm程度以上）割れ目沿いの酸化はほとんど認められない。岩盤として良く締まっているが、ハンマーの強打によって潜在的な割れ目に沿って割れる。
CM級	岩片は概ね新鮮、堅硬で、割れ目間隔も広いが（5～15cm程度）割れ目沿いの大半が酸化している。頁岩の薄層は風化により変色しているが軟化はしていない。岩盤と概ね一体化しているが、ハンマーの普通程度の打撃により割れ目沿いに割れる。
CL級	岩盤は風化により変色し、割れ易い。割れ目間隔は5cm程度が主体となり、割れ目沿いの酸化が著しい。岩盤の大半は緩み気味で、一体性に乏しく、ハンマーの軽打により割れ目沿いに割れ易い。
D級	岩片自体が著しく軟質化し、割れ目沿いに流入・変質粘土、土砂、木根などの挟在が認められ、開口している。岩盤として、極めて一体性に乏しい。



←水資源機構の
Youtubeはこちら

思川開発建設所の
Twitterはこちら→



上南摩の動植物 “オオヤマカタバミ”



○和名：オオヤマカタバミ ○学名：Oxalis obtriangulata

○科名：カタバミ科

○分布：栃木県内では、日光市、鹿沼市

(かつては塩谷町、宇都宮市でも見られた)

○環境省：絶滅危惧

○栃木県：準絶滅危惧

谷壁斜面のスギ林の日陰で、やや湿度の高い場所で生育している多年草です。

分布が局地的で個体数が少なく、栃木県が分布の北限にあたります。個体数はどの生育地でも数十株ほどです。

花は4～5月に開き、花弁は白色で長さ13～15mm、紫色の脈があります。(出典:レッドデータブックとちぎ 2018 改訂版)



去年は3月に花が咲いていました

(2020年3月19日 撮影)

思 川 散 策

＜思わず行きたくなる思川＞を発見する「思川散策」

鹿沼市上久我の加蘇山神社をピックアップ

878年以前の創建と伝えられる神社 かそやま 加蘇山神社

今回は鹿沼市上久我にある加蘇山神社に行ってきました。加蘇山神社は「巨大な杉」や「千本かつら」という天然記念物があり、大河ドラマ「義経」の撮影地にもなっています。

加蘇山神社の鳥居をくぐり、階段を上っていくと、まず出迎えてくれるのは遙拝所です。力強く書かれた御朱印が頂けます。脇を抜け林道を10分程歩いて行くと鳥居と2本の「巨大な杉」が見えてきます。写真右側の杉は樹齢約500年で市指定の天然記念物です。



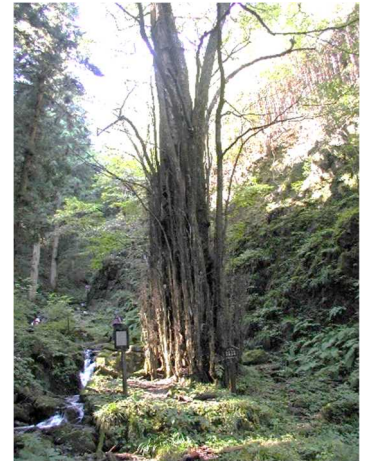
石段を上りきった先には拝殿がありますが、登らずに進んでいくと、県指定の天然記念物「千本かつら」に出会うことができます。

千本かつらは2本のかつらが1つに交わり成長し、樹齢は約1,000年と700年で寄り添うように伸びていることから「縁結びの千本かつら」と呼ばれています。

千本かつらを過ぎ、行者返しの岩を上ると奥の宮にたどり着きます。

千本かつらまでは景観を楽しみながらのトレッキングができますが、奥の宮への道は本格的な登山コースとなるため、きちんとした装備が必要です。

大自然の力強さに触れたい方は、きちんとした登山装備をして千本かつらを拝み、奥の宮へ挑戦してみてはいかがでしょうか？



再発見！鹿沼の魅力（第19回）

「野州麻」（やしゅうあさ） — 鹿沼は、生産量日本一 —

野州麻は、江戸時代のはじめごろから県西部の鹿沼市域などの中山間地で、盛んに栽培され、戦前の最盛期にはすでに、栃木県は生産量日本一となりました。戦後は、化学繊維の普及等による消費の減少や、輸入麻の増加により需要の減少や栽培手続きの煩わしさから大きく生産量が減少しました。最近ではいちごやそば、コンニャクの栽培、さつきの育苗へと構造改善がなされ、生産量が激減しました。その様な中にあっても、日本一の生産量を継続してきました。栃木県の麻は、品質の良い国産の麻として、神社における需要等その人気は根強いものがあり、鹿沼は日本一の生産量を維持しています。また、最近では、麻紙作りとその紙を利用した工芸品制作など需要拡大に向けた新たな取組も見られます。

今後も、野州麻は、伝統文化の継承にも不可欠な存在であり続けるとともに、鹿沼ブランドの一つとして、クラフト感溢れるインテリア・小物製品は、お洒落で魅力的なお土産としても喜ばれ、素材として期待されています。

野州麻についてもっと詳しく知りたいと思われる方は、粟野図書館に併設されている粟野歴史民俗資料館内の常設展示「野州麻（受け継がれる伝統文化）」で麻の生産、歴史、文化などを知ることができます。是非、一度、訪れてみてはいかがでしょうか。その他、同じ旧粟野町内には、麻をテーマとした工房やカフェもあるようです。是非、鹿沼の魅力を再発見してみませんか。

【出典(写真)】：鹿沼市ホームページ「鹿沼ブランド（麻）」(<https://www.city.kanuma.tochigi.jp/0285/info-0000001209-0.html>)、及び

「粟野歴史民俗資料館」(<https://www.city.kanuma.tochigi.jp/0313/info-0000002068-0.html>)より抜粋】



麻の工芸品例「鹿沼ブランドパンフレット」より



粟野民族資料館内常設展示の様子

下野かるたより

栃木県内の地元かるたを用いて、様々な歴史・文物を紹介するこのコーナー。
引き続き、『下野かるた』(しもつけ 栃木県文化協会発行)からの紹介です。

< 雷神のやまいなおした録事尊 >

後鳥羽上皇の病気を治癒した鎌倉時代の名医、中野智玄は雷様にお灸をすえて病気を治したという伝承があり、鹿沼市下粕尾の常楽寺にある智玄をまつた録事尊にお参りすると雷の災害を避けられるといわれこの地方の人たちに信仰されています。

録事尊のある常楽寺は広くは彼岸花の咲く寺とも知られ、多くの人で賑わいます。



ダムカードの配布及びダムサイト展望広場の開放を再開しました！

緊急事態宣言を受けて、ダムカードの配布及びダムサイト展望広場の開放を休止していましたが、緊急事態宣言の解除に伴い3月22日から再開いたしました。

ダムカードは、建設中の今だけの限定デザインです。

ぜひ、日々変わりゆくダムの建設現場をご覧頂き、ダムカードを手に入れてください！



【ダムカード配布場所】

①思川開発建設所

(9:00～17:00、土日祝日・年末年始(12/29～1/3)を除く)

②まちの駅 新・鹿沼宿

(9:00～19:00、年中無休※年末年始は時間に変更になる場合があります。事前にご確認ください。)

【ダムサイト展望広場】

開放時間：9:00～16:30

※ ダム（建設現場）を見た証として、展望広場などからデジタルカメラや携帯電話、スマートフォンなどで写真を撮影し、配布場所でご提示ください。

※ ダムカードの配付はお一人様1枚です。

※ 情勢により、ダムカード配布及びダムサイト展望広場の開放を再度中止する可能性があります。最新の情報は思川開発建設所HPをご確認ください。



【人事異動（管理職）】

転入

副所長	平澤 賢也（中部支社より）
事業調整役	大村 朋広（旧吉野川河口堰管理所より）
第一用地課長	神田橋 修（川上ダム建設所より）
調整課長	長谷見 智久（利根導水総合事業所より）
機械課長	黒田 浩一（旧吉野川河口堰管理所より）

転出

杉田 康司（中部支社へ）
青木 孝（総合技術センターへ）
岩原 典和（豊川用水総合事業部へ）
浅井 崇（本社へ）
上野 英二（大山ダム管理所へ）

編集後記

新年度を迎え、暖かな日差しと空気が春を知らせてくれています。満開の桜が彩る、鹿沼の美しい町並みには感動を覚えました。昨年度は、ダム本体工事の開始。今年度からは適切な施工と管理を行いながらダムを完成させるため尽力していきます。導水工事や付替県道工事などを含め、益々のご協力をよろしくお願いいたします。

お知らせ

▼見学会の実施や工事状況等の詳細については、お電話またはHPをご覧ください！

（※見学会については、栃木県内在住の方を対象として受付を再開しております。）

▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています！お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい！

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

T e l (0289) 85-1110 F a x (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.htm>

思川開発

検索

